

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 89人

② 算数 89人

5 留意事項

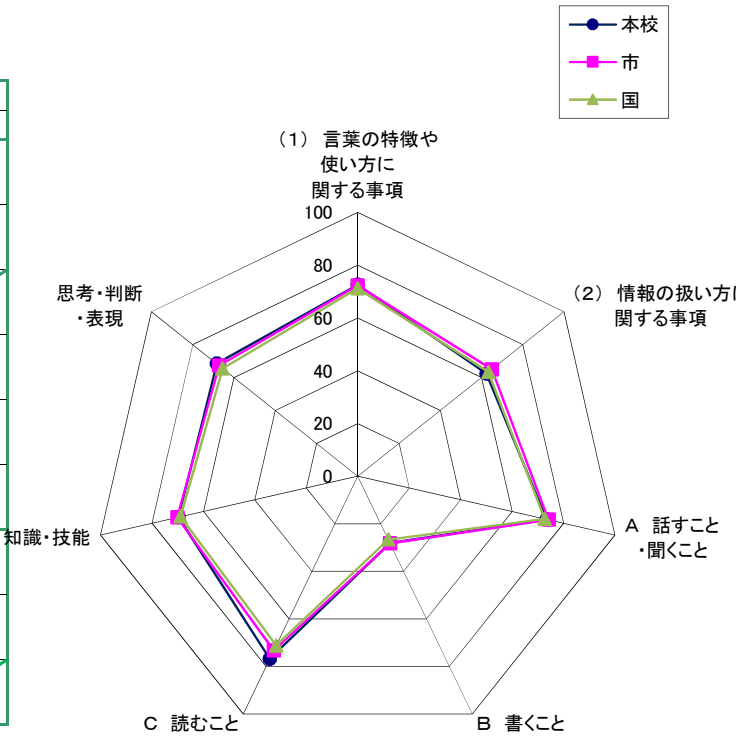
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.6	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	62.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	73.4	74.2	72.6
	B 書くこと	28.1	28.2	26.7
	C 読むこと	76.8	73.3	71.2
観点	知識・技能	69.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	68.4	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

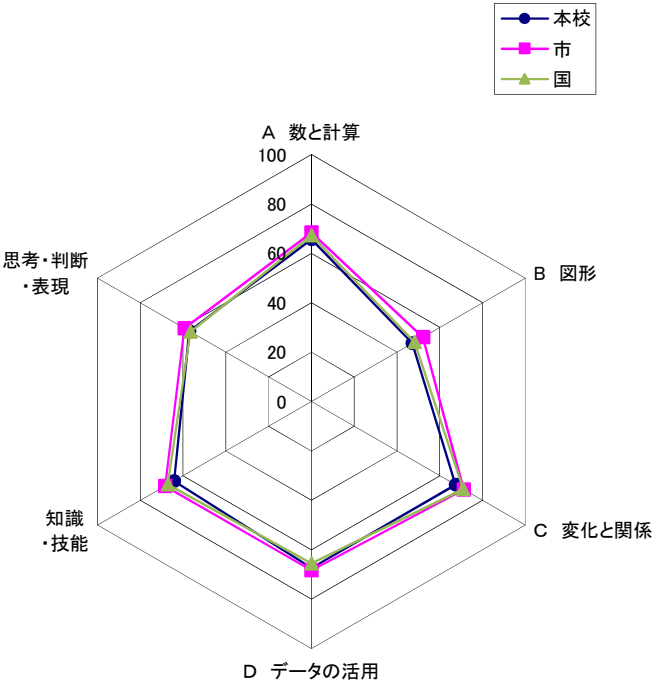
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国と比較してやや上回っている。 ○文章の種類とその特徴について理解しているかどうかを見る問題では、県の平均より7.5ポイント上回っている。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、無回答率が県の平均に比べて3.3～6.3ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、今後も効果的な指導法を工夫し、個別に支援するとともに、AIドリルを活用しながら文章内で正しく使えるように習熟を図る。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国と比較してやや下回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題では、県の平均より7ポイント上回っている。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかを見る問題では、県の平均より8.4ポイント下回っている。	・原因と結果や図などによる語句と語句との関係について正しく読み取り、それらを使うことは他教科にも通じる学習の柱と考えられる。教科書をよく読み、文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えて活用したりすることができるよう継続して指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国と比較してやや上回っている。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題では、県の平均より1.4ポイント上回っている。 ●無回答率は、13.5%で、県の平均より2.7ポイント下回っている。	・分からない問題があっても諦めずに回答できるよう支援を続けていく。 ・自分の意見をもち多様な視点や考えをもちながら相手の話の内容を捉え、友達と伝え合ったり、話し合ったりする時間を設け、考えを広げたり、深めたりする経験を積ませる。
B 書くこと	平均正答率は、全国と比較してやや上回っている。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、国や県の平均とほぼ同じだが、無回答率は3.4%で、県の平均より3ポイント下回っている。	・図表やグラフなどの情報を正しく読み取り、それらを整理したり関係付けたりすることで自分の考えを明確にさせ、また、自分の考えが明確に伝わるように、文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整えながら書くことができるよう継続して指導していく。 ・行事などを実施した後などには自分の思いを書く機会を作り、日常的に文章を書くようにする。
C 読むこと	平均正答率は、全国と比較して上回っている。 ○目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する問題では県や国より3.3ポイント上回っている。 ○目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では、県より9.2ポイント上回っている。	・文章を正しく読み取れるように、文章の内容を丁寧に確認をし、段落やまとまりの要約や筆者の主張などを的確に把握することを継続して指導していく。

宇都宮市立明保小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.7	68.4	67.3
	B 図形	47.2	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	67.4	71.2	70.9
	D データの活用	67.4	68.3	65.5
観点	知識・技能	64.2	68.4	67.2
	思考・判断・表現	57.1	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国と比較してやや低い。 ○求め方と答えを式や言葉で記述する問題については、県の平均よりも1.8ポイント高い。 ○以上の意味を理解し、日数を計算する問題に関しては、県の平均よりも1.8ポイント高い。 ●乗法において解が一の位、十の位が0になる計算を行う問題については、県の平均よりも5.7ポイント低い。	・今後も、計算ステップアップやドリル等を活用し、基本的な計算が正しく解けるよう練習を継続するとともに、計算の手順が理解できるよう、習熟度別学習等を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・結合・分配法則等の計算の仕方や、割り算の各段階の商の意味を問う問題については、授業の中で立式の意味を考えさせ、計算練習をしたりドリルを活用したりし、習熟を図っていく。
B 図形	平均正答率は、全国と比較してやや低い。 ○底辺が同じ長さ、高さが同じ長さであるが、形が違う三角形の面積の大きさを比較する問題では、国の平均よりも12.9ポイント高い。 ●テープを切ったり折ったりしてできる四角形の形を答える問題については、国の平均よりも4.1ポイント低い。 ●紙を折り、切って開いた三角形を正三角形にするための角度を求める問題については、県の平均よりも10.6ポイント低い	・図形の特徴と名称が正確に理解できるよう、授業の中で適宜復習をしたり、ドリル等を活用して習熟を図ったりして定着を図る。 ・角度に関する問題については、図形と角度の関係を確認し、今後も基本の定着に向けて練習を継続する。また、児童の状況に応じ、やや複雑な問題も解決できるよう、AIドリル等も活用し、個に応じた指導の充実を図る。
C 変化と関係	平均正答率は、全国と比較して低い。 ○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題では、県の平均よりも3.1ポイント高い。 ●示された基準量と比較量から割合を求める問題では、県の平均よりも7.6ポイント低い。	・割合の問題では、基準量、比較量、割合の関係、活用について再度見直し、さらなる定着を図れるようにする。また、基本的な部分でつまづいている児童には、簡単な問題から取り組みせ、苦手意識の軽減につなげる。 ・比例に関する問題では、表の意味や比例の条件を再確認するとともに、関係性を読み取ったり式に表したりするよう、基本的な問題だけでなく、活用問題にも取り組みさせていく。
D データの活用	平均正答率は、全国と比較してやや高い。 ○「以上」の意味を理解し、表から必要な数を読み取る問題については、全国よりも1.2ポイント上回っている。 ○二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題については、全国よりも5.1ポイント高い。 ●示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題では、県よりも2.9ポイント低い。また、無回答率が18ポイントである。	・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目をしたり、ある項目に当たる数を求めたりすることはできているが、条件に合わせた説明をすることに苦手意識が感じられるので、言葉と数を用いた記述や説明ができるよう、書き方の枠を作成したり、教材や資料を用いて簡単な問題から取り組みせたりし、苦手意識の軽減に取り組んでいく。

宇都宮市立明保小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に寝ている」「毎日同じくらいの時間に起きている」と回答した児童の割合は、全国平均より上回っており、家庭科や学級活動等での指導の成果が表れている。今後も、生活習慣が向上するよう、家庭との連携を図りながら指導していきたい。

○「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合は90.2%で、全国平均を6.7ポイント上回っている。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童の割合は98.9%で、全国平均を5.9ポイント上回っている。共に9割を超えており、授業や生活を通して児童に寄り添い、活躍の場を与えたり、励ましたりするなど、一人一人のよさを認め励ます指導の充実を図ってきた成果であると考えられる。今後も、児童の自信につながる指導を工夫していきたい。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童の割合は85.8%で、全国平均を9.0ポイント上回っている。これは、道徳や総合的な学習で学んだ成果であると考えられる。今後も、人の役に立つ喜びを感じたり高めたりできるような学習や体験活動を、充実させていきたい。

○「5年生までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童の割合は、78.3%で、全国平均を14.6ポイント上回っている。これは、言語活動の内容と指導方法を工夫している成果が表れている。今後も、自分の意見を伝える場を多くし、話し合いの質の向上を図っていききたい。

●「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に、30分以上1時間未満と回答した割合が最も多く、半数近い。しかし、全国平均、県平均では、1時間以上2時間未満と回答した割合が最も多いことから、学習時間がやや少ないことがうかがえる。本校で推奨している学習時間は、1時間以上であることから、学習内容や取り組み方法など、家庭の協力を得ながら、個別指導していきたい。

●「新聞を読んでいるか」の設問に「ほぼ毎日読んでいる」と回答したのは2.2%で、全国平均より2.1ポイント下回った。「ほとんど、または、全く読まない」と回答した割合は、73.9%であった。今後は、社会事象に興味を持たせたり、新聞を使った学習を展開するなどして、新聞への興味・関心を向上させたい。

宇都宮市立明保小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着	話の聞き方、発表の仕方、ノートの取り方などの基本的な学習スキルの育成。 AI型学習ドリル等の学習履歴を活用した学習支援。	「5年生までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童の割合は、78.3%で、全国平均を14.6ポイント上回っている。 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、「ほぼ毎日」「週に3回以上」「週に1回以上」と回答した割合で9割を超えていた。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	「宇都宮モデル」(はっきり・すっきり・じっくり)に基づき授業のねらいを明確にし、課題解決の過程を重視し学習のまとめや振り返りをする事で、学習内容の定着を図っている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる事ができていますか」では、肯定的に回答した児童は82.6%で、全国平均よりも5.2ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、書くことの領域の「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題では、国や県の平均正答率をやや上回っているが、正答率は28.1%と低く、無回答率は3.4%であった。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めずに、児童に寄り添いながら思考の過程で励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において、「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、本校の目標とする1時間以上と回答した児童の割合は40.3%であった。全国より16.8ポイント低い。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的にし、「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させたりする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。 関心意欲を高める授業を工夫し、家庭での学びにつなげる働きかけをする。